

成果指標				
成果指標	単身高齢者(寝たきり高齢者を除く)のうち相談員訪問対象者の割合			
指標設定の考え方	相談員が訪問見守り等により在宅高齢者の状態の把握に努め、関係機関との連携を密にし高齢者福祉の向上を図る。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	50	50	50	0
実績	45.96	46.56	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	高齢者家庭相談員による訪問し声かけし、相談に応じることで、不慮の事故の防止や高齢者の不安の軽減が図られ、高齢者福祉の増進につながっている。今後も継続した関わりを持って事業を推進していく。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	高齢者家庭相談員による訪問等により、高齢者の不安軽減が図られている。今後も増加する高齢者に対する施策として継続して行う必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会抽出事業 (二次評価者コメント) 高齢者家庭相談員の役割は重要度を増しており、その事業効果を検証するため、行政評価委員会に諮る。

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談事業等見守りの対象事業が複数にわたっている。対象者がダブるなど無駄はないか。事業の重複は無駄だと思う。 ・家庭相談員の報酬はすごく安い。指標を訪問割合の増とするなら、意欲のある方には報酬の運用を見直してはどうか。 ・家庭相談員がトラブルにあった場合を考え、ルールを整備しないといけない。 ・見守り事業の全体像、見取り図のようなものがあれば質問もしやすくなるし、分かりやすくなる。作ってほしい。 ・もっと実情を調査し、関係者間で情報共有を行い、効率のいいやり方をしていただきたい。 ・事業を社協に丸投げしているのが気になる。相談員の委嘱も広報委員からの推薦というフィルターがかかる。広報委員制度そのものの検討の必要があるし、今までと違う新しいサービスを提供する観点から事業を捉え直す必要がある。
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	(Blank)